

家畜衛生だより

令和6年11月8日 No.30
庄内家畜保健衛生所
庄内地区家畜畜産物衛生指導協会
TEL 0235(68)2151
FAX 0235(66)2466

福岡県で ランピースキン病発生(国内1例目)

国内初!

【発生状況】

11月6日、福岡県内の乳用牛飼養農場において、国内では初めてとなるランピースキン病の発生が確認されました。

【ランピースキン病について】

宿主：牛・水牛

症状：全身の皮膚の結節や水腫、発熱、鼻汁、泌乳量減少

感染経路：蚊・ハエ・ダニなどの昆虫、感染牛との接触感染など
有効な消毒：次亜塩素酸ナトリウム・消石灰・アルコール類など

- ◆人・物を介した衛生管理区域、畜舎内への病原体持ち込み防止を徹底しましょう。特に畜舎に入る際の専用長靴の着用、手指消毒または手袋交換を徹底しましょう。消毒については、適切な濃度で使用し、踏み込み消毒槽の消毒液交換は、汚れた場合だけでなく、1日1回は交換しましょう。
- ◆毎日の健康観察、早期発見及び早期通報を徹底しましょう。
- ◆発生している国・地域への渡航は自粛しましょう。また、これらの国・地域から外国人技能実習生を受け入れている場合は、携帯品や国際郵便による畜産物の持ち込み禁止を周知徹底してください。

家畜に異常が見られた場合は速やかに連絡をお願いします！

庄内家畜保健衛生所 0235-68-2151

(夜間・休日は携帯に転送されます)

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

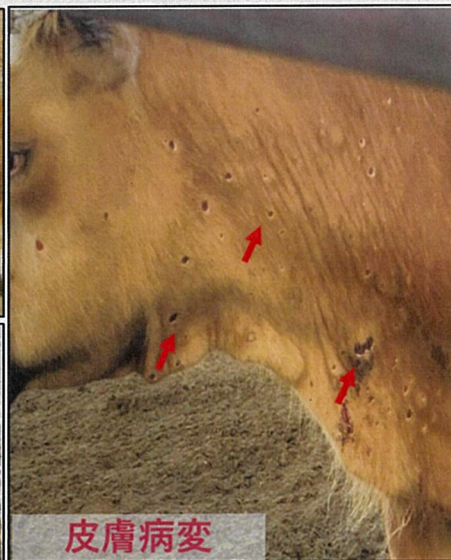
ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大



疑わしい場合は
直ちに連絡！



写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
(State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

ランピースキン病の侵入防止対策

01 毎日の健康観察

早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、
出荷、移動時は健康観察を徹底。



02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、
粘着シート等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。